

令和4年度 学校自己評価

令和5年3月28日

学校運営評価点

項目	令和4年度	令和3年度	令和2年度
I 学校経営	4.1(+0.1)	4.0(-0.3)	4.3(+0.6)
II 教育課程・活動	4.0(-0.3)	4.3(+0.5)	3.8(-0.1)
III 入学・卒業対策	4.0(-0.3)	4.3(-0.2)	4.5(+0.5)
IV 学生生活支援	4.0(+0.3)	3.7(-0.3)	4.0(-0.3)
V 管理運営・財政	4.0(+0.3)	3.7(-0.1)	3.8(±0)
VI 施設設備	3.7(+0.2)	3.5(±0)	3.5(-0.5)
VII 教職員の育成	3.9(±0)	3.9(+0.5)	3.4(+0.1)
VIII 広報	3.3(-0.8)	4.1(+0.1)	4.0(±0)
IX 地域・国際交流	2.6(-0.5)	3.1(+0.5)	2.6(-0.6)

総評

- ・3項目が3.0以上4.0未満の評価であった。
- ・5項目が4.0以上の評価であった。
- ・4項目で評価が上昇していた。(0.1~0.3)



2022 度 学校運営の自己評価

評価項目	評価の根拠
一 学校経営	<p>教育理念・目的・目標については、母体病院の理念を反映させた内容をあげている。卒業生像については明文化されているが、到達状況や卒業後の状況について分析ができていない課題があったため、今年度は母体病院での状況把握ができるようアンケートの作成を行った。次年度は、母体病院の協力を得ながら卒業生の状況を把握できるよう努める。</p> <p>学生のアンケートから学生に教育理念・目的・目標、卒業生像が十分周知されていない現状があるため、学校生活の中で学生が意識できるよう教職員が関わることを課題である。</p> <p>年間の努力目標を明文化し、教職員で共有した。今年度の努力目標から各学年が昨年度の課題を踏まえて目標を立て、中間評価をしながら学生のサポートを行った。努力目標は、教育会議で達成状況を評価し、次年度の目標につながるよう取り組んだ。</p> <p>会議については、運営会議をはじめ教育会議、業務会議等を定期的に行い、学校運営についての検討を行った。今年度は、次年度のカリキュラム改正に向けて何度も会議をもち検討を重ね、カリキュラム改正に取り組むことができた。</p> <p>学校運営に関する学生からの意見や要望は、年度末に学校運営に関する評価をアンケート形式で実施し、次年度の学校運営に反映させるよう努めた。また学内と学生寮には意見箱を設置し、学生が生活しやすいよう意見・要望を募っている。意見・要望に関しては、教職員で検討し学生に検討内容を伝えるよう取り組んでいる。</p>
二 教育課程・教育活動	<p>教育課程の編成は、関係法令にそって、設置主体、病院附属の学校としての特色を踏まえ編成している。今年度は教育会議で新カリキュラムの運用について検討しながら、学生が興味関心をもって学習に取り組めるよう、教育内容の精選や教授方法、教材等の検討を行った。今後も、教育の質が維持できるようカリキュラム運営について検討を重ねる必要がある。</p> <p>教育の質を維持・向上するために、授業修了時には学生より授業評価を受けているが、今年度も概ね実施し回答を得た。また、授業研究を実施し、教育内容や教授方法、教材についてディスカッションする場を設けることができた。また、今年度は、授業評価からよりより課題やみえるよう授業評価（講義と実習）の見直しを行った。</p> <p>教育課程については、入学時にガイダンスを行い学習内容の全体が把握できるように、年間計画を配布した。授業科目のシラバスは、授業開始時に学生に提示し担当者が内容の説明を行うようにした。</p> <p>受験者確保の取り組みとして、できる限り高等学校へ訪問したり学校説明会に参加し本校のPRができる場を設けた。また、コロナ禍で一日看護学生体験の実施が難しかったため、少人数による看護学生体験を実施や Web 説明会を開催するなどの工夫を行った。今年度は、推薦・社会人入試受験生が 0.5%減少したが、一般入試受験者は昨年度と同様であった。学生確保にむけて本校で学ぶことの魅力を伝えられるよう今後も広報活動に力を入れて取り組む。</p> <p>国家試験対策は、1 年次から計画的に取り組んだ。学生個々に合わせてグループ学習や個別学習を行い、学習効果を評価しながらサポートした。今後はより学生と密に関われる体制づくりを検討していく。</p>

評価項目	評価の根拠
Ⅲ	<p>入学・卒業対策</p> <p>推薦・社会人入学者の母体病院への就職希望者は 13 名/14 名(約 93%)であり、うち合格者は 11 名/14 名(約 79%)であった。学生全体では、母体病院への就職者は 17 名/30 名(約 57%)であった。他の就職希望者 10 名のうち 9 名は県内、1 名は県外への就職となった。引き続き、母体病院で活躍し地域に貢献できる人材育成が必要である。</p>
Ⅳ	<p>学生生活への支援</p> <p>各学年に教員 2 名を担当者として配置している。教務係長と学年担当統括係長がリーダーシップを取り教職員全体で学生の悩みや問題に対応できる体制をとっている。就職や進学の相談も面談を行い学生と共に進路が決定できるよう取り組んでいる。また、卒業後は就職先と情報交換を行う機会をもったり、卒業生個々の相談にも応じる等のサポート体制を取るよう努めている。</p> <p>健康管理については、校医を中心に健康診断を 1 回/年の実施をした。医療機関への受診が必要な学生に関しては、母体病院と連携を取りフォローできる体制をとっている。今年度は、母体病院の臨床心理士によるカウンセリングが受けられるよう体制を整え、メンタル面へのサポートを強化した。</p> <p>経済的支援については、母体病院独自の奨学金制度があり、学習に励むモチベーションにつながっている。日本学生支援機構の奨学金については、説明会を開いたり手続き時にサポートが必要な学生に対しては教務事務が対応する体制が整っている。また、本校は「高等教育の就学支援制度」の認定校となっており、支援が必要な学生の学費軽減につながっている。引き続き、学生個々の経済状況に応じたサポートができるよう努める。</p> <p>学生のクラブ活動は、バレーと茶道部であるが、病院のクラブ活動にも参加できる。例年であれば、募金活動やグループホームへのボランティア活動を学生自治会が中心となり運営しているが、今年度は、クラブ活動も含め新型コロナウイルス感染症により活動できていない。</p>
Ⅴ	<p>管理経営・財政</p> <p>本校は病院附属の学校であり、病院経営を基盤に運営している。予算計画は、前年度の評価から策定し運営会議で検討している。教員から看護教育に必要な教材や設備について意見を求め、予算確保ができるよう努めている。事務員は学生からの授業料等の納入状況の確認を行い管理している。</p> <p>個人情報ガイドラインは明文化し提示している。また個人情報とは全て鍵のかかる場所に保管・管理している。</p> <p>今年度は災害対策マニュアルを検討し、「いのちを守る防災マニュアル」を作成し学生に配布した。次年度は、マニュアルを活用しながら内容の評価を行う。防災訓練は、学生寮も含め引き続き定期的実施する。また、昼間は母体病院の安全管理担当者、夜間は防災センター警備員が学内の見回りを毎日行い不審者の侵入防止や防犯に関しての管理を行っている。</p>
Ⅵ	<p>施設設備</p> <p>校舎は築 35 年以上になるが、耐震基準は満たしており法令に基づき設備点検を定期的に行っている。</p> <p>今年度は、図書室や談話室、研究室のエアコンを新調し学習環境が整えられるよう整備した。</p> <p>女子の更衣室が狭く、学生に協力を得ながら使用してもらっている状況がある。建物の構造上、更衣室を広くすることが難しいと考えているが、学生からの意見も聞きながら改善策がないか検討していく。</p>

評価項目		評価の根拠
Ⅲ	教職員の育成	教員は、県が主催する専任教員継続研修に、それぞれのキャリアに応じて参加したり、各自が必要に応じて研修会や学会に参加し、個々の成長につながるよう努めた。また、母体病院での研修会に参加したり、eラーニングを活用した学習に各自が取り組んだ。学内では授業研究を行い、授業後はディスカッションする場を設け、担当科目の位置づけや科目とのつながりを考えたり、教材や方法の工夫につなげることができた。
Ⅳ	広報	ホームページは、学校案内を充実させ、受験希望者に本校の興味を持ってもらえるよう、行事やお知らせなどタイムリーに更新するよう情報発信している。現在は、教員が中心となってホームページの更新を行っているが、今後は学生の意見も取り入れながら、学生と共にホームページの充実や本校の情報発信を行えるよう検討していく。
Ⅴ	地域貢献	今年度も新型コロナウイルス感染予防のため学生祭を中止せざるを得なかった。そのため、学生自治会が地域貢献できるよう清掃活動を計画し実施した。今後は地域のニーズを把握しながら、地域に貢献できる取り組みを学生自治会が主体となり取り組めるようサポートしていく。